

## 1. 略歴

1991年3月	東京大学文学部第四類心理学専修課程 卒業
1991年4月	東京大学大学院人文科学研究科心理学修士課程 進学
1993年3月	東京大学大学院人文科学研究科心理学修士課程 修了
1993年4月	東京大学大学院人文科学研究科心理学博士課程 進学
1996年3月	東京大学大学院人文社会系研究科心理学博士課程 修了 博士(心理学)取得
1996年4月	岡崎国立共同研究機構生理学研究所 研究員(COEポスドク)
1997年4月	岡崎国立共同研究機構生理学研究所 研究員(日本学術振興会特別研究員PD)
1997年9月	米国ハーバード大学心理学部視覚科学研究所 研究員(日本学術振興会特別研究員PD)
1999年4月	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 社員
2000年4月	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 研究主任
2004年4月	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 主任研究員
2005年4月	東京大学大学院総合文化研究科 助教授
2007年4月	東京大学大学院総合文化研究科 准教授
2013年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

知覚心理学、認知神経科学

### b 研究課題

こころの時間長・同期・クロックを作り出す認知メカニズムの解明。視空間的な注意機能と認知発達の関係。錯視の多面的研究—実験心理学・脳機能画像・数理解析・生物学的手法を用いて—。

### c 概要と自己評価

知覚世界のどんなオブジェクトが他の何と比べていつ・どこにあるように思えるのか、という中で「いつ」に対応する、非常に基本的な視覚体験であるにもかかわらず、対象の「主観的現在」の心的・脳内表現や処理過程については未解明である。そこで、「こころの時間」の神経基盤解明の目標として、数秒以内の範囲をもつ「主観的現在」の心的表象と神経機構に関し、ヒトを対象とした知覚実験と非侵襲脳計測・刺激法で、視覚系を軸に置いた「主観的現在」の心的持続時間がどこでどうやって決まっているのか、感覚モダリティ内外で決まる知覚的時刻・時間軸同期はどのようになされるのか、心的時間を刻むクロックはどのような心的プロセスと相互影響し合うか、の原理を解明する。認知発達の研究では、心の理論、実行機能、見かけと実際の区別、記憶のされ方など、広範囲の認知能力が問題とされる。そこで、注意の範囲や向け方が視空間的課題、記憶課題、メタ認知課題遂行時にどのように変化するかを調べるため、成人を対象に検討する。近年錯視研究は急速な進歩を遂げており、錯視は珍しい現象というわけではなくなりつつある。それどころか、錯視のいくつかは恒常性、運動視、色覚、立体知覚など機能的なメカニズムそのものであったり、その不可避的な誤動作であることが明らかになり、錯視は「普通の視覚のメカニズム」を明らかにする重要なツールとなりつつある。そこで、これまで得られた豊富な成果を基礎としてさらに錯視研究を発展・深化させることによって、錯視研究の成果が視覚のメカニズムの解明に直結する時代を先取りすることを目的とする。時間知覚研究、注意研究、錯視研究のいずれに関しても、高インパクトの国際専門誌への掲載などをはじめ順調な研究成果の出力をしており、実験環境の度重なる改修を挟んでようやく研究を加速させる下地が完成した。

### d 主要業績

#### (1) 著書

共著、村上郁也、東京大学教養学部 編 『高校生のための東大授業ライブ 学問への招待』、第9講「ものを見る」  
行いの不思議 — 錯覚体験でわかる脳のメカニズム」、東京大学出版会、2015.7

共著、武田計測先端知財団 編、『感じる脳・まねられる脳・だまされる脳(科学のとびら59)』、東京化学同人、2016.1

#### (2) 論文

Okazaki, Y.O., Horschig, J.M., Luther, L., Oostenveld, R., Murakami, I., & Jensen, O., 「Real-time MEG neurofeedback training of posterior alpha activity modulates subsequent visual detection performance」、『NeuroImage』、107、323-332 頁、2015.2

Osugi, T. & Murakami, I., 「Onset of background dynamic noise attenuates preview benefit in inefficient visual search」、『Vision Research』、2015.6

Miyamoto, K. & Murakami, I., 「Pupillary light reflex to light inside the natural blind spot」、『Scientific Reports』、5:11862、1-12 頁、2015.6

Terao, M., Murakami, I., & Nishida S., 「Enhancement of motion perception in the direction opposite to smooth pursuit eye movement」、『Journal of Vision』、15(13):2、1-11 頁、2015.9

Hayashi, D. & Murakami, I., 「Facilitation of contrast detection by flankers without perceived orientation」、『Journal of Vision』、2015.11

### (3) 学会発表

国内、村上郁也、「錯覚するのも悪くない」、武田シンポジウム、東京、2015.2.7

国際、Murakami, I., 「Dilation and compression of subjective duration」、RIEC International Symposium on Vision and Cognition、Sendai、2015.3.20

国際、Murakami, I., 「Visual motion antagonism」、RIKEN Nakahara lab 3rd mini symposium on cognition, decision-making and social function、RIKEN、2015.4.20

### (4) 予稿・会議録

国際会議、Osugi, T., & Murakami, I., 「The onset of background dynamic noise degrades preview benefit in inefficient visual search」、Vision Sciences Society Annual Meeting、2014.5.17

『Journal of Vision』、Vol. 14, Issue 10、333 頁、2014.8

国際会議、Terao, M., & Murakami, I., 「Visual crowding distorts oculomotor space」、Asia-Pacific Conference on Vision、Takamatsu, Japan、2014.7.19

『Asia-Pacific Conference on Vision 2014 Program』、14 頁、2014.7

国際会議、Murai, Y., & Murakami, I., 「Temporal relationship between the flash-drag effect and the flash-lag effect: psychophysics and modeling」、Asia-Pacific Conference on Vision、Takamatsu, Japan、2014.7.21

『Asia-Pacific Conference on Vision 2014 Program』、27 頁、2014.7

国内会議、増田洋一郎・寺尾将彦・土師知己・堀口浩史・小川俊平・林孝彰・吉嶺松洋・村上郁也・仲泊聡・常岡寛、「網膜色素変性患者の脳機能：課題依存性 V1 反応の網膜部位再現に関する検討」、日本臨床視覚電気生理学学会、2014.10.3

国内会議、大杉尚之・林大輔・村上郁也、「注意の捕捉効果と視覚的印付け効果の加算性」、日本基礎心理学会、八王子、2014.12.6

国内会議、寺尾将彦・村上郁也、「周辺視での刺激の見えを決定する情報統合の時間窓」、日本基礎心理学会、八王子、2014.12.7

国内会議、湯浅健一・四本裕子・村上郁也、「フリッカー、フラッター刺激を用いた、視聴覚刺激が時間知覚に及ぼす影響の検証」、日本視覚学会、新宿、2015.1.21

『VISION』、Vol. 27, No. 1、19 頁、2015.1

国内会議、林大輔・村上郁也、「方位が見えないフランカーによる Collinear Facilitation 効果における刺激間距離の影響」、日本視覚学会、新宿、2015.1.22

『VISION』、Vol. 27, No. 1、19 頁、2015.1

国内会議、川野晟聖・寺尾将彦・村上郁也、「固視微動由来の網膜運動を模した運動刺激による時間拡張」、日本視覚学会、新宿、2015.1.22

『VISION』、Vol. 27, No. 1、21 頁、2015.1

国内会議、三上昌平・川野晟聖・村上郁也、「周辺視における持続時間順応の位置特異性」、日本視覚学会、新宿、2015.1.22

『VISION』、Vol. 27, No. 1、21 頁、2015.1

国内会議、寺尾将彦・村上郁也、「目標刺激から時間的に離れた近傍刺激によるサッカー到達位置への影響」、日本視覚学会、新宿、2015.1.22

『VISION』、Vol. 27, No. 1、22 頁、2015.1

国内会議、神戸美花・大杉尚之・村上郁也、「刺激提示位置の範囲が視覚的印付けに及ぼす影響」、日本視覚学会、新宿、2015.1.23

『VISION』、Vol. 27, No. 1、24 頁、2015.1

- 国内会議、大杉尚之・村上郁也、「視覚的印付けへの連続的な背景変化の影響」、日本視覚学会、新宿、2015.1.23  
『VISION』、Vol. 27, No. 1、24 頁、2015.1
- 国際会議、Terao, M., & Murakami, I.、「Temporal dynamics of feature integration in peripheral vision and saccadic eye movement」、  
Vision Sciences Society Annual Meeting、St. Petersburg, Florida, USA、2015.5.16  
『Journal of Vision』、Vol. 15, Issue 12、96 頁、2015.9
- 国際会議、Osugi, T., & Murakami, I.、「Additivity of prioritizing selection for new objects by onset capture and visual marking」、  
Vision Sciences Society Annual Meeting、St. Petersburg, Florida, USA、2015.5.17  
『Journal of Vision』、Vol. 15, Issue 12、436 頁、2015.9
- 国際会議、Hayashi, D., Terao, M., Cai, L., Osugi, T., & Murakami, I.、「Diagonal Stretch Illusion: the distance between dots  
appearing longer when surrounded by circles」、Vision Sciences Society Annual Meeting、St. Petersburg, Florida, USA、  
2015.5.17  
『Journal of Vision』、Vol. 15, Issue 12、467 頁、2015.9
- 国際会議、Nakamura, S., & Murakami, I.、「Time compression in an unadapted region after adaptation to a moving surround」、  
Vision Sciences Society Annual Meeting、St. Petersburg, Florida, USA、2015.5.18  
『Journal of Vision』、Vol. 15, Issue 12、810 頁、2015.9
- 国内会議、林大輔・寺尾将彦・蔡林・大杉尚之・村上郁也、「周辺の刺激によって2点間の距離が異なって見える錯  
視」、日本視覚学会、東京、2015.7.27  
『VISION』、Vol. 27, No. 3、111 頁、2015.7

- 国内会議、大杉尚之・武田裕司・村上郁也、「復帰の抑制による知覚時間の短縮」、日本視覚学会、新宿、2016.1.20  
『VISION』、Vol. 28, No. 1、34 頁、2016.1
- 国内会議、林大輔・寺尾将彦・山上精次・大杉尚之・村上郁也、「ひし形の歪み錯視の時間特性に関する検討」、日本  
視覚学会、新宿、2016.1.21  
『VISION』、Vol. 28, No. 1、37 頁、2016.1

(5) 会議主催(チェア他)

- 国内、「日本視覚学会」、チェア、セッション9、大岡山、2015.7.27~2015.7.29  
国内、「日本視覚学会」、チェア、セッション5、新宿、2016.1.20~2016.1.22

(6) 総説・総合報告

- 村上郁也、「錯覚と眼球運動と視野安定」、『文化交流研究』、Vol. 27、49 頁、2014.3

(7) 翻訳

- 個人訳、David G. Myers、「Psychology 10th ed.」、村上郁也、『カラー版 マイヤーズ 心理学』、西村書店、2015.4

### 3. 主な社会活動

(1) 学会

- 国内、日本視覚学会、幹事、2014.4~2016.3  
国内、日本心理学会、代議員、2014.4~2016.3  
国内、包括型脳科学研究推進支援ネットワーク、研究集会委員会、2014.4~2016.3  
国際、Frontiers in Perception Science、Review Editor、2014.4~2016.3  
国際、International Congress of Psychology、organizing committee、2014.4~2016.3  
国内、日本基礎心理学会、常任編集委員、2014.4~2014.10、編集委員長、2014.11~2016.3、常務理事、2014.11~2016.3

(2) 行政

- 省庁、日本学術会議、科学技術政策、連携会員、2014.4~2016.3